
2022年3月期 第2四半期 決算説明会

CONNECT!

～電気と情報をつなぐ～

 **日東工業株式会社**

証券コード：6651

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。従って、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、表記の都合上、公表している数字とは異なる場合があります。

目次

1 2022年3月期 第2四半期決算概要

2 トピックス

✓ 新市場区分の選択

✓ 原材料価格等の高騰による影響

✓ 価格改定について

3 2022年3月期 通期連結業績予想

4 中期経営計画

5 参考資料

1 2022年3月期 第2四半期決算概要

2 トピックス

- ✓ 新市場区分の選択
- ✓ 原材料価格等の高騰による影響
- ✓ 価格改定について

3 2022年3月期 通期連結業績予想

4 中期経営計画

5 参考資料

第2四半期 連結決算ハイライト

- 2022年3月期 第2四半期業績は減収減益
- 上期業績計画に対して、連結売上高は未達となるも利益項目は超過達成
- 企業間競争の激しさは増しつつあるものの、上期業績へのマイナス影響は想定以下
- 営業利益は売上減少による限界利益の減少や材料価格高騰の影響、販管費増加などにより減益

(単位：百万円)

	2021/3	2022/3			
	2Q実績	2Q計画	2Q実績	前年同期比 増減率	計画比 増減率
売上高	63,443	61,300	61,014	△3.8%	△0.5%
営業利益	5,078	2,900	3,902	△23.1%	+34.6%
経常利益	5,219	3,000	4,059	△22.2%	+35.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,255	1,800	2,622	△19.5%	+45.7%

セグメントについて

■ 2022年3月期より、セグメントを見直し

- (旧) ①配電盤関連製造事業、 ②工事サービス事業
- (旧) ③情報通信関連流通事業
- (旧) ④電子部品関連事業



- ①電気・情報インフラ関連 製造・工事・サービス事業
- ②電気・情報インフラ関連 流通事業
- ③電子部品関連 製造事業

電気・情報インフラ関連 製造・工事・サービス事業

■ 配・分電盤、制御盤等の設計、製造、販売
および電気設備の設置、保守等の工事事業



電気・情報インフラ関連 流通事業

■ 情報通信機器および部材の仕入、販売等



売上 構成比	29%
営業利益 構成比	8%

売上 構成比	59%
営業利益 構成比	68%

電子部品関連 製造事業

■ 電磁波環境コンポーネント、精密エンジニアリングコンポーネントの製造、販売



売上 構成比	11%
営業利益 構成比	23%

※ 2022/3期2Q実績。四捨五入の関係上、100%とならない場合があります。

第2四半期 セグメント別 決算ハイライト

- 製造・工事・サービス事業は、5G関連の設備投資に伴い関連製品の売上が順調に推移したほか、海外子会社の売上が増加。しかし、日東工業単体の売上減少による限界利益の減少や原材料価格高騰、販管費増加などにより増収減益
- 流通事業は、オフィスやデータセンター関連案件の受注減少に伴い、ネットワーク機器やその部材の売上が減少したほか、前期計上のGIGAスクール構想関連の売上剥落により減収減益
- 電子部品事業は、コロナ禍の影響により低迷していた需要の回復に伴い、各種製品の売上が増加。また、原材料の需給ひっ迫の影響から、在庫積み増しを目的とした先行的な受注が増加したことにより増収増益

(単位：百万円)

セグメント別		2021/3	2022/3			
		2Q実績	2Q計画	2Q実績	前年同期比 増減率	計画比 増減率
売上高	製造・工事・サービス事業	35,794	35,100	36,104	+0.9%	+2.9%
	流通事業	22,498	20,400	17,959	△20.2%	△12.0%
	電子部品事業	5,150	5,800	6,950	+35.0%	+19.8%
	合計	63,443	61,300	61,014	△3.8%	△0.5%
営業利益	製造・工事・サービス事業	4,196	—	2,651	△36.8%	—
	流通事業	759	—	324	△57.3%	—
	電子部品事業	122	—	909	+643.1%	—
	合計	5,078	2,900	3,902	△23.1%	+34.6%

※本スライド以降、セグメント名は略して表記しています。

第2四半期 製造・工事・サービス事業（部門別売上高）

2022年3月期
第2四半期

- コロナ禍の影響による売上減少はあったものの、5G関連の設備投資に伴い関連製品の売上が順調に推移したほか、海外子会社であるGathergates社の売上増加や内部売上消去の減少などにより増収
- キャビネット部門や遮・開・パ・他部門は、FA市場や5G関連等の設備投資に伴い関連製品の売上が増加

(単位：百万円)

部門別 売上高		2021/3	2022/3			
		2Q実績	2Q計画	2Q実績	前年同期比 増減率	計画比 増減率
サービス事業 製造・工事	配電盤	18,318	18,000	18,074	△1.3%	+0.4%
	キャビネット	10,397	10,000	10,660	+2.5%	+6.6%
	遮断器・開閉器・パーツ・その他	5,418	5,400	5,693	+5.1%	+5.4%
	工事・サービス	1,661	1,700	1,675	+0.9%	△1.5%
合計		35,794 (3,793)	35,100	36,104 (2,205)	+0.9% (△41.9%)	+2.9%
連結全体合計		63,443	61,300	61,014	△3.8%	△0.5%
連結売上構成比		56.4%	57.3%	59.2%	+2.8%	+1.9%

※ () 内はセグメント間の内部売上高

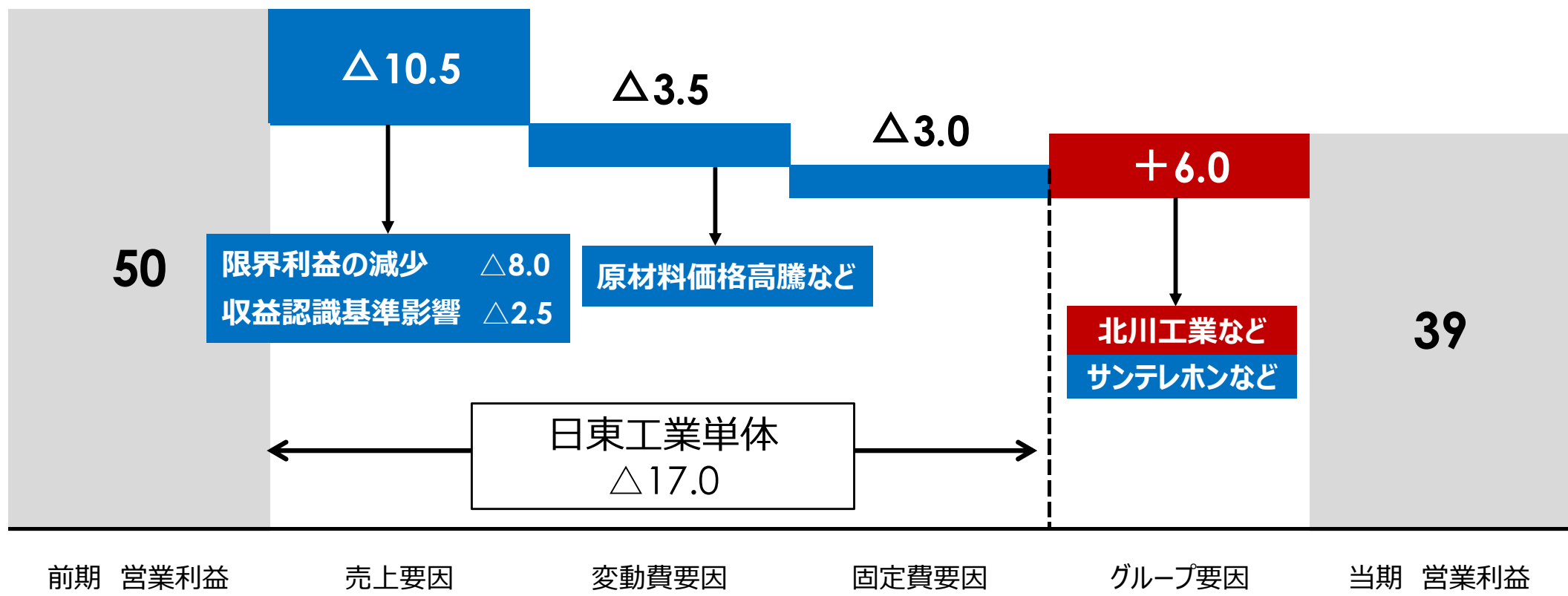
第2四半期 連結営業利益の増減要因

- 日東工業単体要因では、限界利益の減少や原材料価格高騰、販管費増加などにより減益となる
- グループ要因では、前年同期にコロナ禍の影響で落ち込んでいた北川工業グループの業績回復の影響が大きく増益となる

(単位：億円)

【2021/3月期 2Q実績】

【2022/3月期 2Q実績】



第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

2022年3月期
第2四半期

(単位：百万円)

2021/3 2Q	
現金及び現金同等物の期末残高	29,620
営業活動によるキャッシュフロー	4,755
投資活動によるキャッシュフロー	△1,536
財務活動によるキャッシュフロー	△3,130
現金及び現金同等物にかかる換算差額	△95
現金及び現金同等物の四半期末残高	29,613

2022/3 2Q	
現金及び現金同等物の期末残高	34,301
営業活動によるキャッシュフロー	4,913
投資活動によるキャッシュフロー	△3,033
財務活動によるキャッシュフロー	△4,988
現金及び現金同等物にかかる換算差額	208
現金及び現金同等物の四半期末残高	31,401

<2021/3 2Q 主な要因>

■ 投資活動によるCF

固定資産の取得による支出	△2,643
定期預金の払い戻しによる収入	+836

■ 財務活動によるCF

短期借入金の減少	△1,687
配当金の支払額	△1,415

<2022/3 2Q 主な要因>

■ 投資活動によるCF

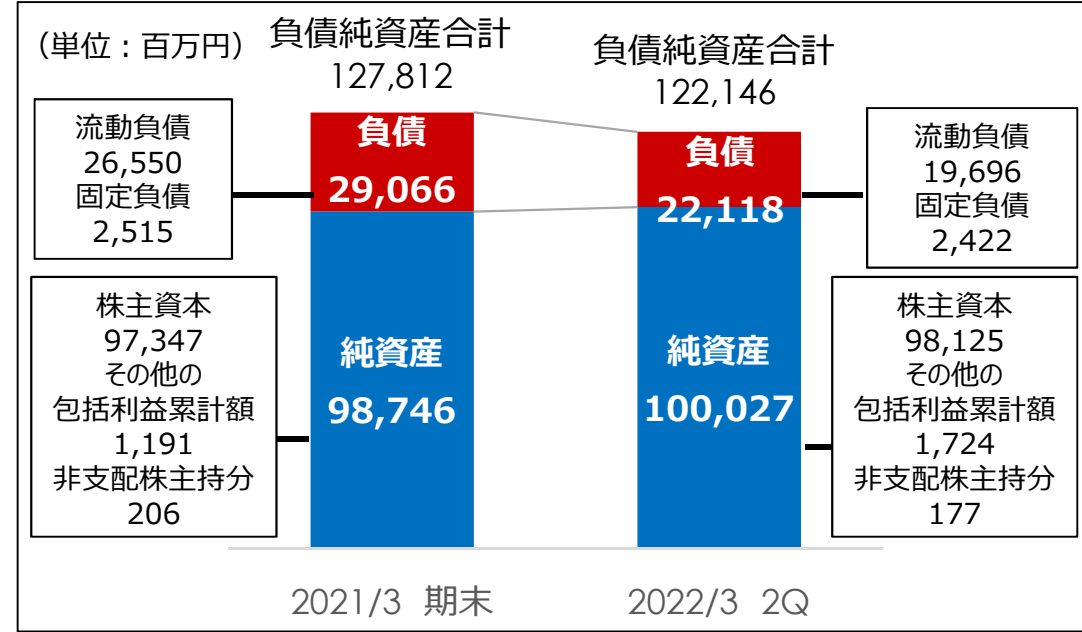
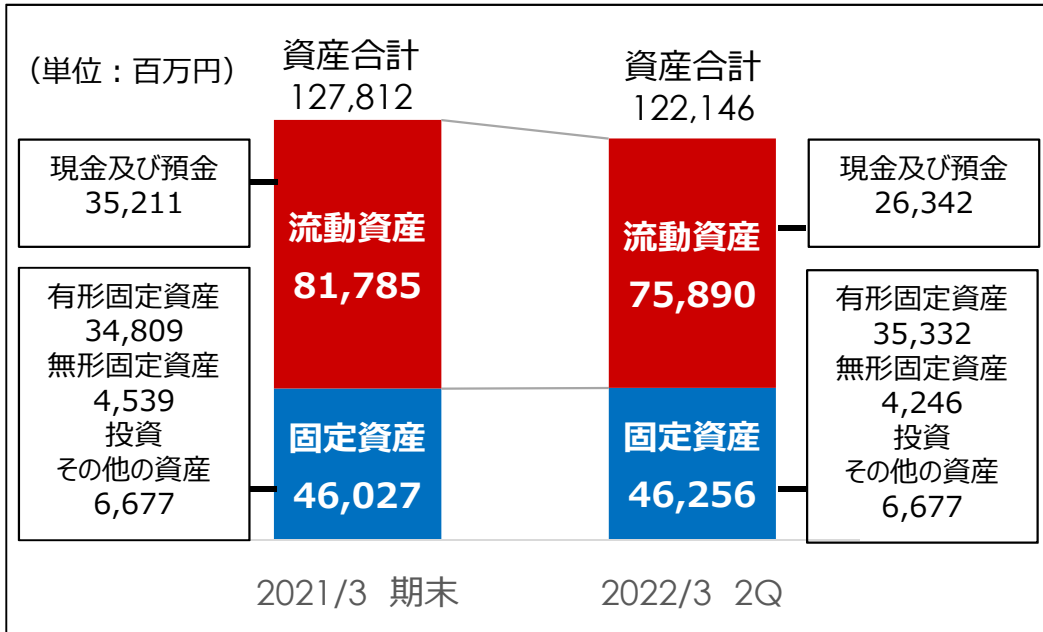
固定資産の取得による支出	△3,072
--------------	--------

■ 財務活動によるCF

短期借入金の減少	△3,079
配当金の支払額	△1,864

第2四半期 連結財政状態の概要

■ 短期借入金が減少したことなどにより、総資産が減少



<主な増減内容>

■ 資産

現金及び預金の減少	△8,868
受取手形、売掛金及び契約資産の減少	△5,428
有価証券の増加	+6,000

■ 負債

支払手形及び買掛金の減少	△1,526
短期借入金の減少	△3,072

■ 純資産

当期純利益	+2,622
剰余金の配当	△1,864

目次

1 2022年3月期 第2四半期決算概要

2 トピックス

✓ 新市場区分の選択

✓ 原材料価格等の高騰による影響

✓ 価格改定について

3 2022年3月期 通期連結業績予想

4 中期経営計画

5 参考資料

トピックス 新市場区分の選択

**東京証券取引所の新市場区分において、
当社が移行する市場としてプライム市場を選択しました**

■ 新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果

⇒全ての項目で、プライム市場の基準を満たしていることを確認しました

製造・工事・サービス事業を中心に、下期にかけて
原材料価格等の高騰によるマイナス影響を強く受ける見込み

原材料名	業績への影響
鉄 鋼	大
ステンレス	小
伸 銅	中
樹 脂	小
その他	小

トピックス 価格改定について

2022年7月より、日東工業製品の価格改定を実施

コスト低減や経費削減などをあらゆる部門で行っているものの、大幅な原材料価格の高騰を自助努力で吸収することが極めて困難な状況にあることから、以下のとおり日東工業の一部製品について価格改定を実施する予定です。

主な対象製品と価格改定率（予定）

対象品群	改定率
キャビネット	約10%
システムラック	約10%
光接続箱	約5%
熱関連機器の一部	約10%
盤用パーツの一部	約10% (銅関連パーツは約25%)
標準分電盤・制御盤	約2～8%

※上記改定率は製品群ごとの概要であり、製品によって改定率は異なります

目次

1 2022年3月期 第2四半期決算概要

2 トピックス

- ✓ 新市場区分の選択
- ✓ 原材料価格等の高騰による影響
- ✓ 価格改定について

3 2022年3月期 通期連結業績予想

4 中期経営計画

5 参考資料

通期 連結業績予想

- 売上高は、設備投資需要の回復により既存市場の売上増加を想定しているものの、GIGAスクール構想関連の特需剥落などにより全体では減収となる見込み
- 利益は、原材料価格高騰や価格競争激化、グループ業績悪化などにより減益となる見込み

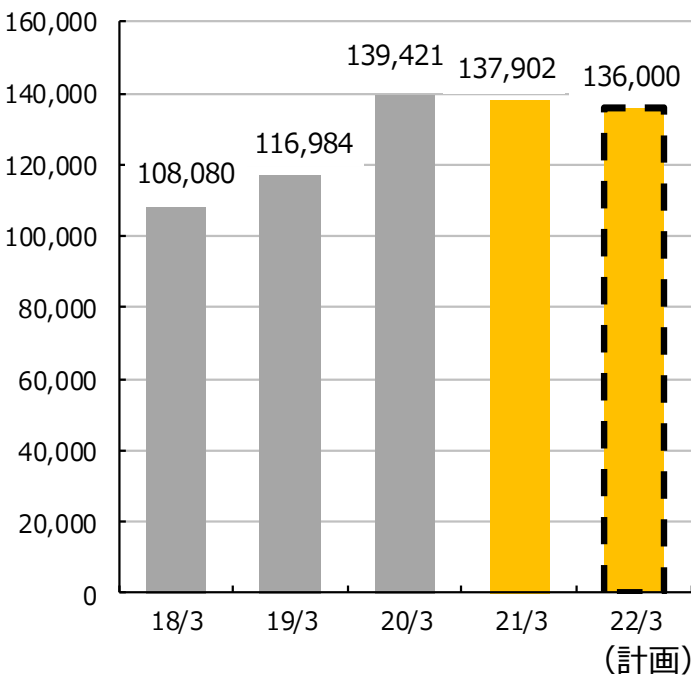
(単位：百万円)

	2021/3		2022/3			
	2Q 実績	通期 実績	2Q 実績	前期比 増減率	通期 計画	前期比 増減率
売上高	63,443	137,902	61,014	△3.8%	136,000	△1.4%
営業利益	5,078	12,333	3,902	△23.1%	9,500	△23.0%
経常利益	5,219	12,660	4,059	△22.2%	10,000	△21.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,255	8,827	2,622	△19.5%	6,600	△25.2%

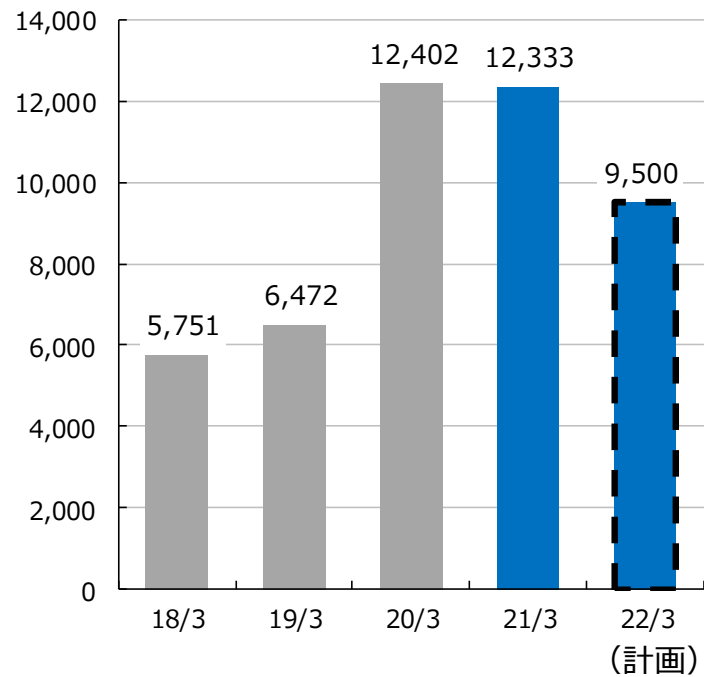
連結経営成績の推移

■ 2022年3月期の計画通り着地すれば、売上高は過去3番目、利益項目は6番目となる

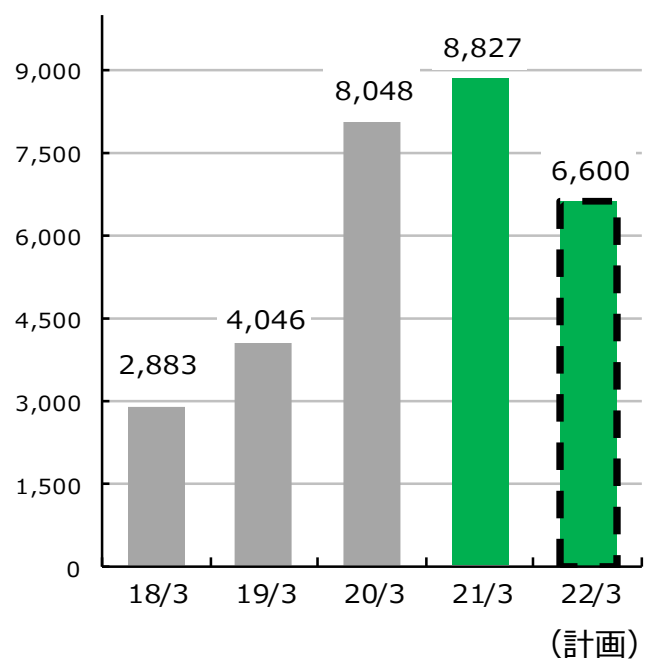
■ 売上高



■ 営業利益



■ 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)

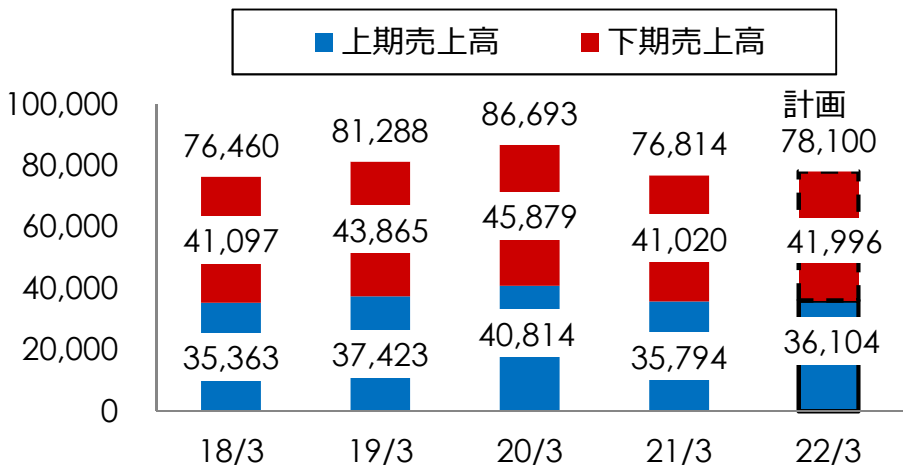


	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3 (計画)
売上高	108,080	116,984	139,421	137,902	136,000
営業利益	5,751	6,472	12,402	12,333	9,500
親会社株主に帰属する当期純利益	2,883	4,046	8,048	8,827	6,600

セグメント別 業績予想 (製造・工事・サービス事業)

通期予想 (売上高) 78,100百万円 (前期比 +1.7%)

(単位：百万円)



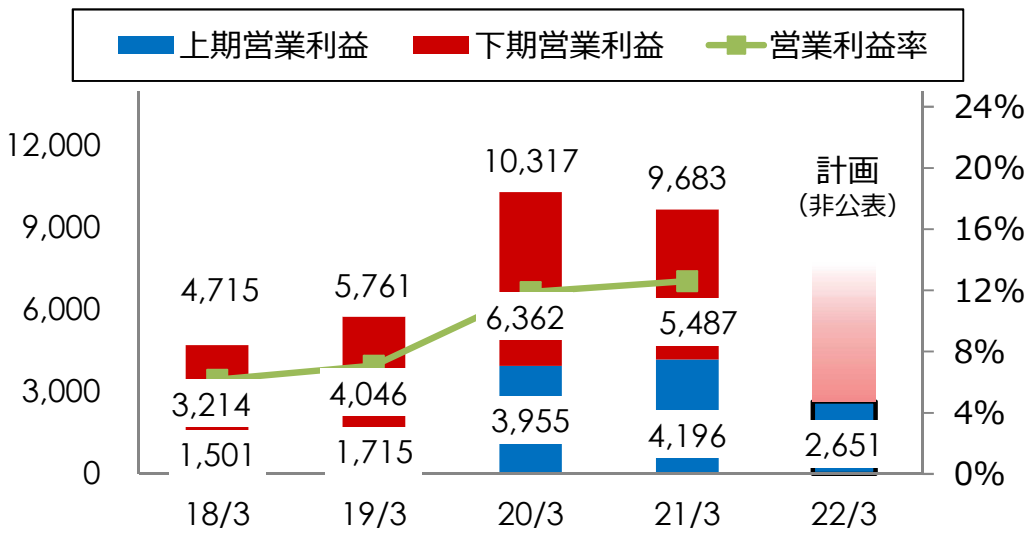
通期予想

■ 22/3期は21/3期よりもコロナ禍の影響は軽微となり、既存市場の需要回復による売上増加により増収を見込む

取り組み

- 5G関連市場での製品提案活動 (大手・地方通信事業者)
- Gathergates社の収益性を重視した営業活動の推進

(単位：百万円)



主要グループ会社：通期見通し

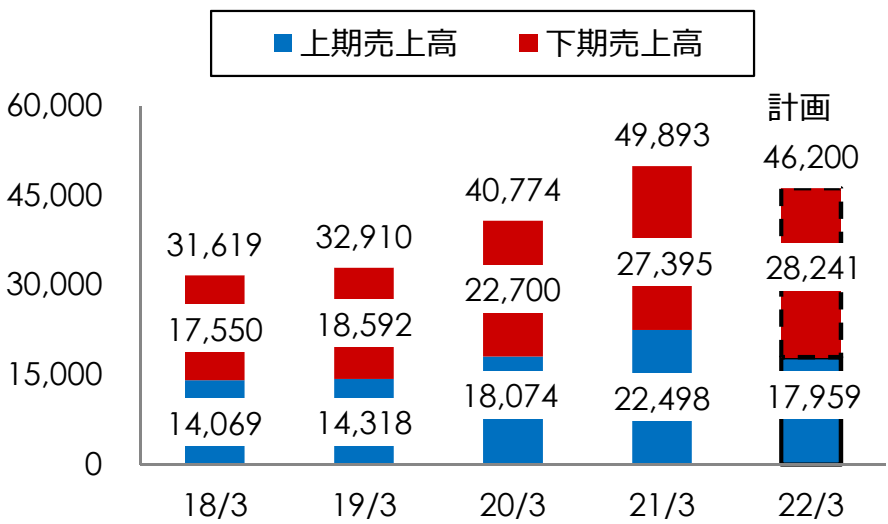
会社名	売上 (前期比)	営業利益	グループ利益影響度
国内	日東工業	☁️☔️	大
	新愛知電機製作所	☁️☀️	小
	南海電設	☀️	小
	大洋電機製作所	☀️☔️	小
海外	Gathergates Group	☀️☔️	小
	NITTO KOGYO BM (THAILAND)	☀️☔️	小

※22/3期より、セグメントを変更しており、過去の数字も変更後のセグメント区分と同様の区分にて修正しております。四捨五入の関係で他公開資料と数値が一致しないことがあります。

セグメント別 業績予想 (流通事業)

通期予想 (売上高) **46,200百万円 (前期比 △7.4%)**

(単位：百万円)



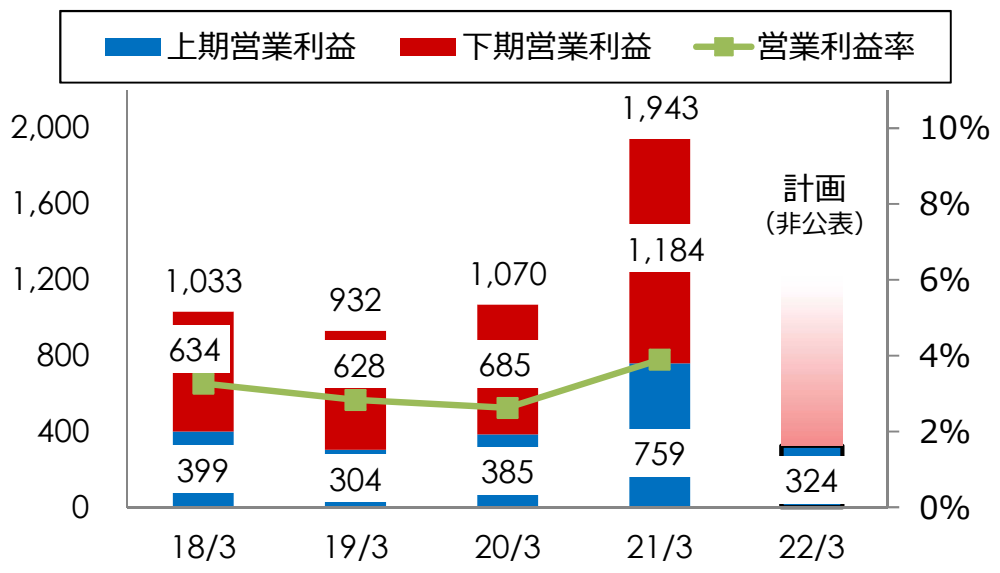
通期予想

- 設備投資需要の回復により既存市場の売上増加を想定しているものの、GIGAスクール構想特需の剥落をカバーするまでには至らず減収を見込む
- 下期は遅延していた案件が顕在化する見込み

取り組み

- 5G関連市場での案件獲得活動
- 海外市場での収益最大化に向けた取り組み強化

(単位：百万円)



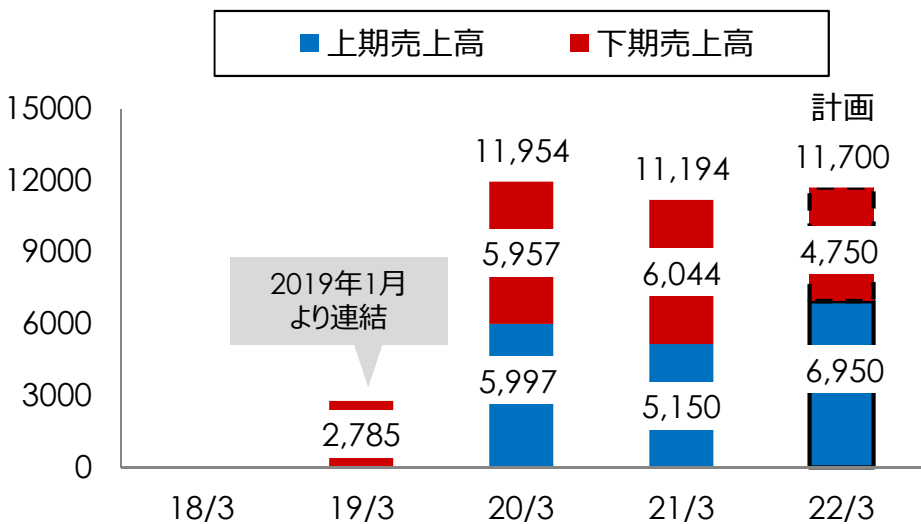
主要グループ会社：通期見通し

会社名	売上 (前期比)	営業利益	グループ利益影響度
国内 サンテレホン	☔	☁	中
海外 SOECO	☀	☔	小

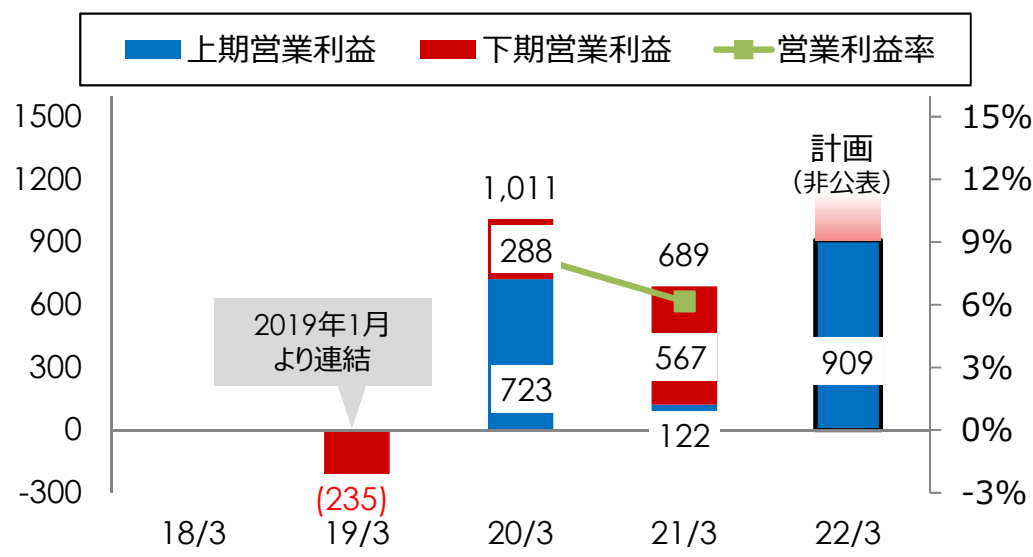
セグメント別 業績予想 (電子部品事業)

通期予想 (売上高) 11,700百万円 (前期比 +4.5%)

(単位：百万円)



(単位：百万円)



通期予想

- 21/3期はコロナ禍のマイナス影響が大きかったものの、22/3期はコロナ禍の影響が軽微となり、需要回復による売上増加により増収を見込む。
- 下期は自動車関連市場の減産や材料調達難の影響を受ける見込み。

取り組み

- EV等の環境自動車市場へのEMC製品、熱製品の販売強化
- 新設備「EVチャンバー」※を活用

※暗室内にモーターを実負荷で稼働させることが出来るダイナモシステムが配置されていることが大きな特徴です。ダイナモシステムにお客様のMotorを取りつけ、実負荷動作でのEMC試験の実施が可能です

主要グループ会社：通期見通し

会社名	売上 (前期比)	営業利益	グループ利益影響度
北川工業			中

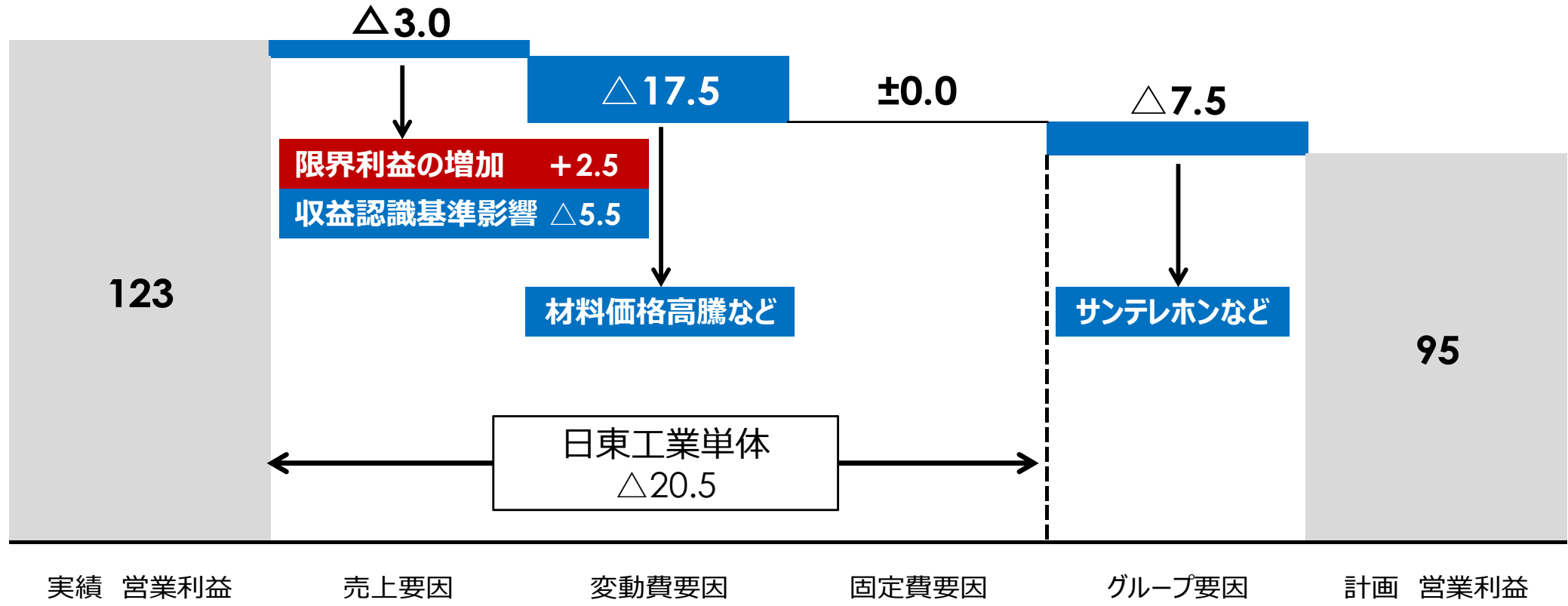
通期 連結営業利益の増減要因 (今期予想 前期比)

- 2022年3月期の連結営業利益は前期比23.0%減少の95億円を見込む
- 日東工業単体では、材料価格高騰（変動費要因）や収益認識基準影響などが利益の押し下げ要因となる
- グループでは、前期好調であったサンテレホンの減益影響が利益の押し下げ要因となる

(単位：億円)

【2021/3月期 実績】

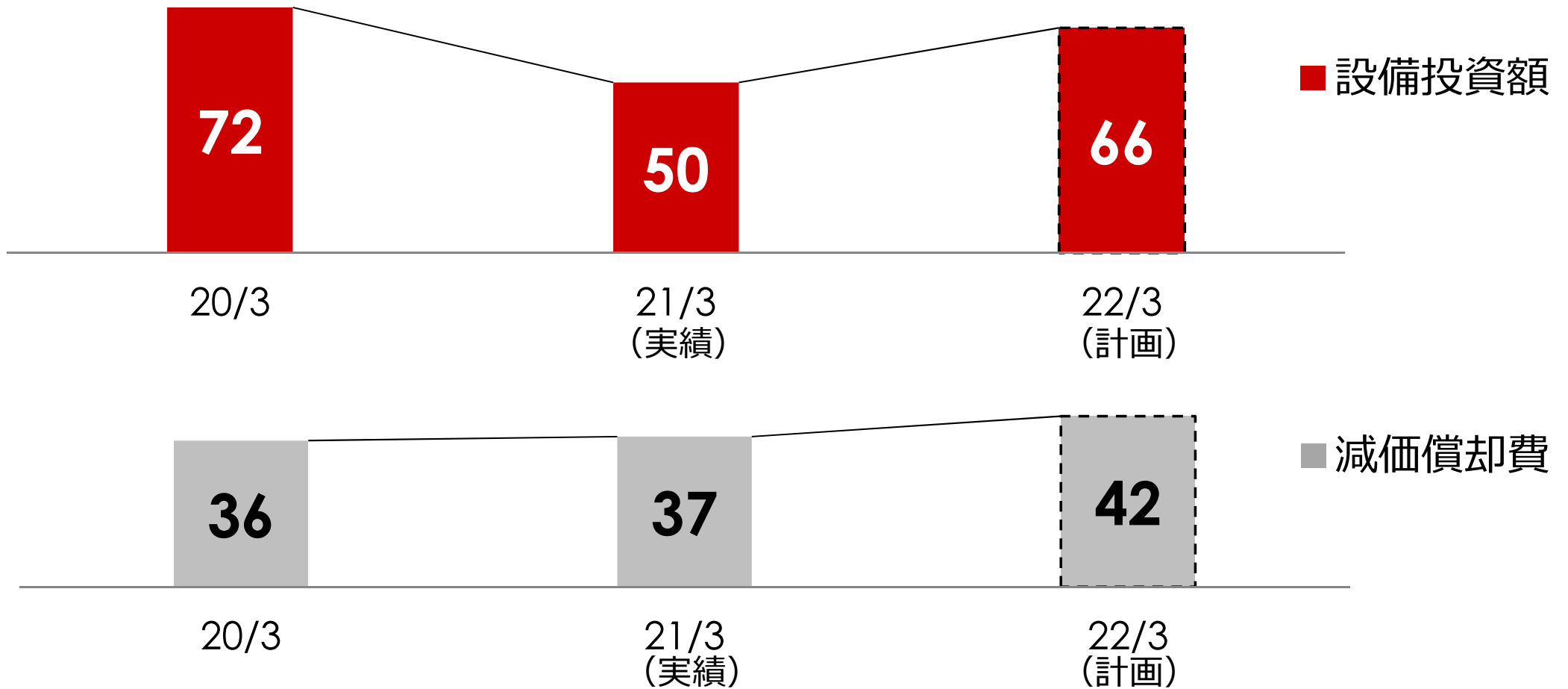
【2022/3月期 計画】



設備投資額、減価償却費

- 2022年3月期は、設備投資額65.8億円、減価償却費42.3億円を計画
- 設備投資計画は、瀬戸工場の造成費用等により増加予定

(単位：億円)

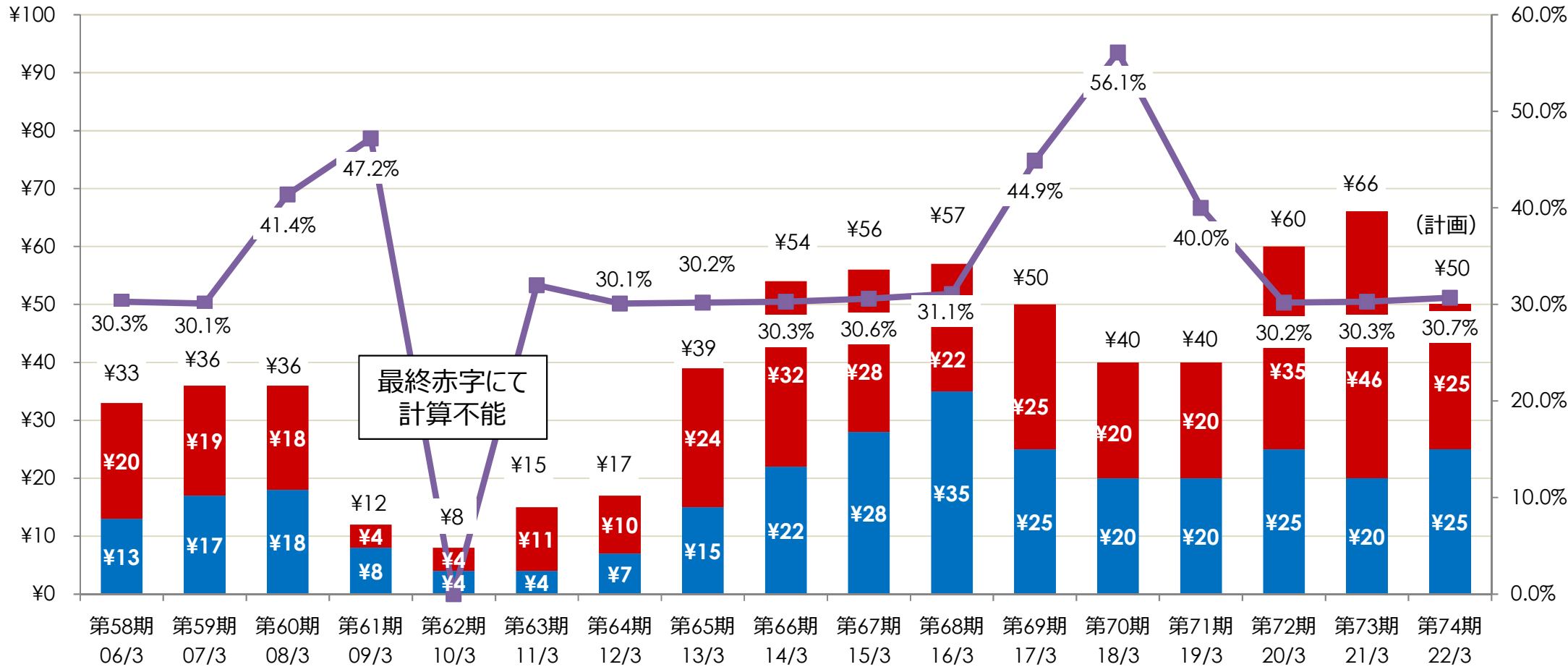


※1千万円単位を四捨五入しています

配当の状況

■ 2022年3月期は、通期配当金50円、連結配当性向30.7%を計画

■ 中間 ■ 期末 ■ 連結配当性向



目次

1 2022年3月期 第2四半期決算概要

2 トピックス

- ✓ 新市場区分の選択
- ✓ 原材料価格等の高騰による影響
- ✓ 価格改定について

3 2022年3月期 通期連結業績予想

4 中期経営計画

5 参考資料

長期経営構想

長期経営構想 長期ビジョン

地球の未来に「信頼と安心」を届ける企業グループへ

目指す姿

- ▶ 持続可能な社会インフラの構築を支える
- ▶ 安心・安全な未来づくりに努め、次世代へとつなぐ
- ▶ 世の中に信頼される課題解決企業集団となる

持続可能な社会の実現に向けた目標 ～ 重要課題 ～

再生可能エネルギーの促進、車両電動化の支援を通じて、**脱炭素社会の構築に貢献する**




老朽化したインフラの更新、防災・減災に関わる製品・サービスを通じて、**強靱な社会の実現に貢献する**




ICTの更なる進展を支え、**ニューノーマル社会の構築に貢献する**




製品・サービスの提供を通じ環境負荷低減活動を推進し、**循環型社会の実現に貢献する**



顧客が抱える社会課題に寄り添い、解決サポートすることで世の中になくはない存在となる



日東工業グループであることに誇りを持ち、自己の成長、働きがいを感じられるようになる



経済的価値と社会的価値を両立させ、企業価値を高める

長期経営構想 グループ基本戦略

1. 個社ブランド戦略の推進

個社ブランドの強化とグループ内での相互活用

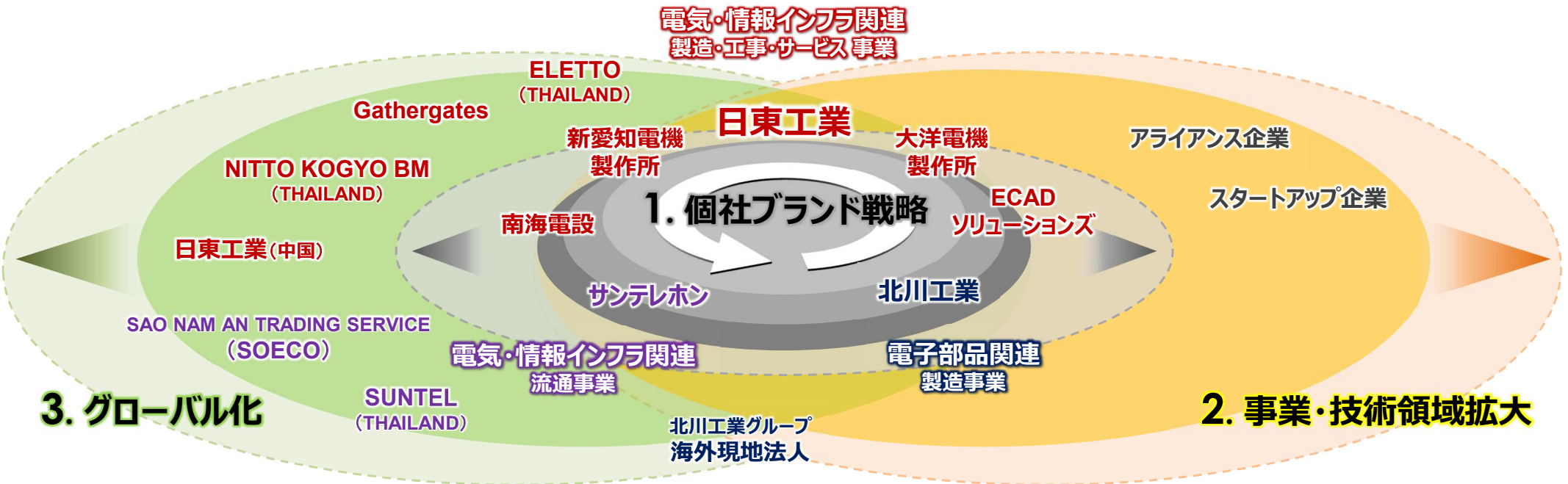
2. 事業領域・技術領域の拡大

3. グローバル化

- 我々が生み出す価値(製品・サービス)を海外にも展開する

- 各社が育ててきたブランドを継承する
- 市場(顧客)に対して知名度のある各社のブランドをグループ内で相互活用する

- 成長分野への積極的な投資により、事業領域・技術領域の拡大をはかる
- グループのリソースを相互活用し、新たなビジネスモデルを生み出す



長期経営構想 長期成長ストーリー

2016
年度

2020
年度

2023
年度

地球の未来に
「信頼と安心」を届ける企業グループへ
企業価値向上



事業規模 拡大
ビジネスを進化させて
経済的価値を高める

重要課題 解決
社会が抱える課題に応え
社会的価値を高める

2023中期経営計画

ビジネスを進化させる
土台を築く

- 事業の規模・領域を拡大
- スキル(技術力・提案力)の向上

社会が抱える課題を見据え
事業機会を創出

2020中期経営計画

ビジネスを進化させる
種を見つける

基本方針

挑戦
次世代のビジネスモデルへ

2023中期経営計画

2023中期経営計画 中期経営方針

基本方針

足場固め と 攻めの経営

盤石な事業基盤の構築

- ✓ 既存事業の体制(売るしくみ・作るしくみ)を強化する
- ✓ 収益性を高めキャッシュを最大化する
- ✓ グループ内の事業シナジーを生み出せる体制を構築する

グループ経営基盤の強化

- ✓ グループ共通の情報インフラ基盤を構築する
- ✓ グループ人財の柔軟な活用・シフトができる体制を整備する

事業拡大への挑戦

- ✓ 既存の市場・業界を越えた新たな事業の創出を目指す
- ✓ 海外市場の展開により事業規模を拡大する
- ✓ 新技術の獲得に向けた取組みを推進する

積極的な成長投資

- ✓ R&D・新事業の戦略投資を推進する
- ✓ 大胆な投資をグループ全体最適で実行できる体制を構築する
- ✓ 成長へとつながる資本提携・M&Aを必要に応じ実行する

2023中期経営計画 財務目標



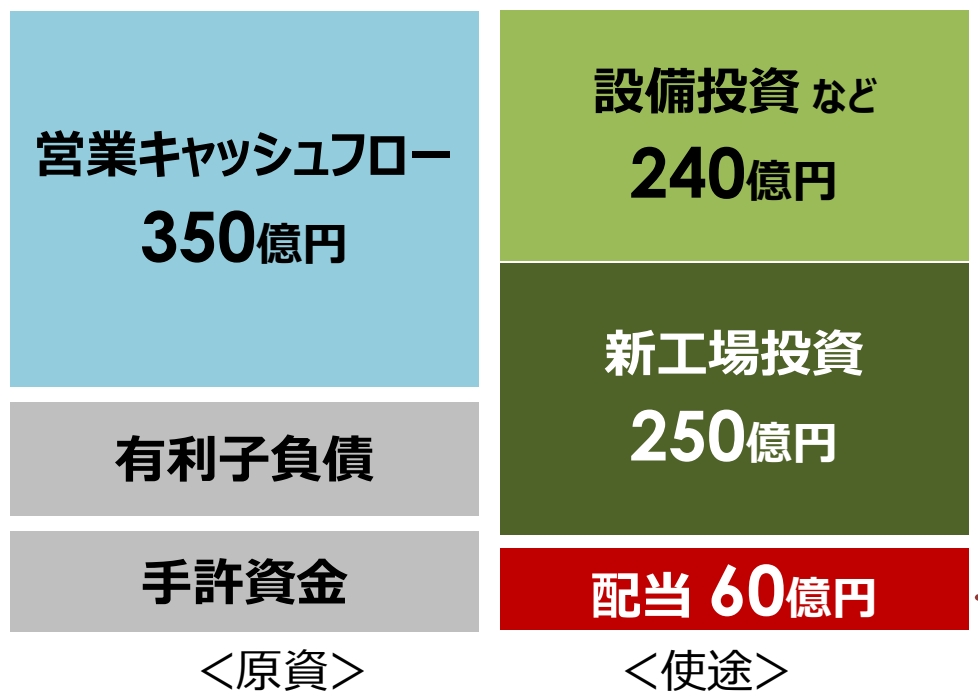
- ▶ 本中期経営計画期間は2024年度以降の成長に向けた準備(足場固め)に重点をおく
- ▶ 新型コロナウイルス感染拡大の市況影響が、2022年度から緩やかに回復していく前提とし、中期経営計画 最終年度までに感染拡大前の水準まで業績を回復させることを目指す
- ▶ 株主資本コストを上回るROEの維持を目指す
新工場関連費用などの大型投資による業績影響を勘案した目標値

2023中期経営計画 財務計画・資本政策

▷ 既存事業で創出した営業キャッシュフローを
設備投資やM&Aなどへ優先的に振り向けた上で、安定的な株主還元を実施する

投資方針

3か年 資金配分計画 キャッシュアロケーション



- ✓ 営業キャッシュフローを源泉にし、投資を実行
- ✓ 成長のための優良な大型投資があれば、負債の活用も視野に入れながら積極的に実行する
- ✓ 設備などの維持・更新目的の投資は、減価償却の範囲内で実行する

株主還元方針

配当性向 30% 業績の変動時にも安定した配当を旨とし、DOEなども勘案する

	2020年度	2021～2023年度
1株あたり配当額	66円	40～66円

2023中期経営計画 セグメント別目標

- 本中計期間内にコロナ禍前の業績への回復を目指す
- 各セグメントにおいて、海外事業に注力することで業績目標達成を目指す
- 製造・工事・サービス事業は瀬戸工場建設関連の費用や償却費などが増加

(単位：億円)

	2021/3 実績	2023中期経営計画			3カ年 成長率
		2022/3	2023/3	2024/3	
連結売上高	1,379	1,360		1,500	+8.8%
製造・工事・サービス事業	768	781		855	+11.3%
流通事業	498	462		515	+3.2%
電子部品事業	111	117		130	+16.1%
(内 海外売上高)	96	114		150	+56.0%
連結営業利益	123	95		130	+5.4%
製造・工事・サービス事業	96	—		99	+2.2%
流通事業	19	—		18	△7.4%
電子部品事業	6	—		13	+88.6%

コア事業競争力の追求

成長を支える柱となる
事業をより強いものに

- 瀬戸工場での実装を目指し、
新工法・新技術・DX等の検証、技術の蓄積
- 販売Webツールの更なる強化を推進
（配電盤・キャビネット・システムラック）



グローバル化

販売・生産体制を固め
海外事業拡大へ

- 2021年8月より、タイのNBT新工場が本格稼働
- NBTにて、キャビネットの穴加工、
作図依頼が可能なWebシステム稼働



新規ビジネスの展開

変化の時代を切り拓く
事業のタネを育てる

- 遠隔操作でピーク電力削減可能な環境配慮型EV充電器発売
- 新モデルのプライベートボックスを発売
 - ⇒ 「現地組立タイプ」をラインナップに追加
 - ⇒ 要望の多い「2人用タイプ」も追加



情報通信事業

DXによる超スマート
社会実現に寄与する

- 5G・ローカル5G関連のインフラ構築案件獲得に注力
- ネットワークカメラを中心とした防犯ビジネス推進
- 東京オリンピックに関するネットワーク構築に貢献



海外事業

日本で確立した事業
基盤を改良移植する

- タイはコロナ禍の影響により営業活動が停滞し苦戦したものの、ベトナムは善戦



新規事業

ファシリティービジネスモデルの確立およびDX実現化の推進サポートを行う

- 環境商材（LED照明、自家消費型太陽光発電など）や風力発電の落雷対応ビジネスの拡販に注力

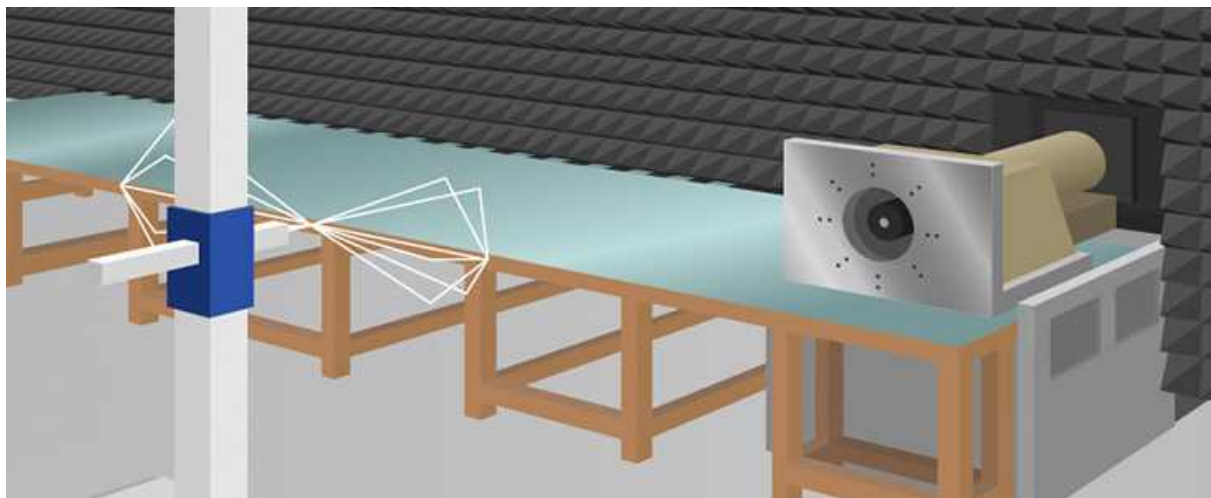


国内事業

新たな成功モデルを創造し
海外の成長エンジンへ

● 各種車載機器のEMC試験に対応

車載機器の自動運転に備えた各種EMC試験（国際規格、メーカー規格対応）
や高速通信にも対応できる測定設備を導入



海外事業

国内成功モデルの展開と
重点市場の売上拡大

● EMC対策支援のグローバル展開活動に向けた取り組みを開始

ご清聴ありがとうございました

CONNECT!

～電気と情報をつなぐ～

 **日東工業株式会社**

証券コード：6651

目次

1 2022年3月期 第2四半期決算概要

2 トピックス

- ✓ 新市場区分の選択
- ✓ 原材料価格等の高騰による影響
- ✓ 価格改定について

3 2022年3月期 通期連結業績予想

4 中期経営計画

5 参考資料

製造・工事・サービス事業

■ 分・配電盤、制御盤等の設計、製造、販売および電気設備の保守等の工事事業

配電盤



高圧受電設備



分・配電盤

キャビネット



キャビネット



システムラック



遮断器・開閉器・パーツ・その他



ブレーカ



パーツ



充電スタンド

工事・サービス



通信設備工事



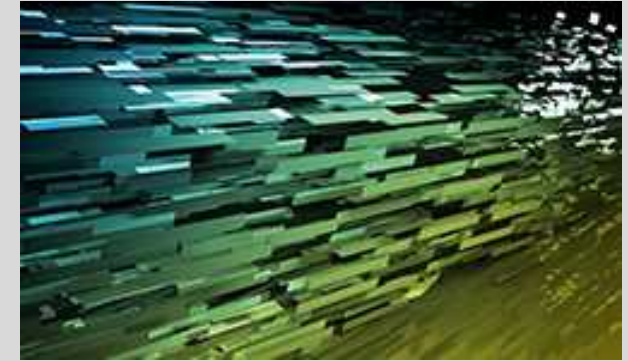
電気設備工事

■ 情報通信機器および部材の仕入、販売



ネットワークカメラ

それぞれのシステムに合わせた
最適な監視システム機器の仕
入、販売



高速ネットワーク機器

無線・有線を効率的に使い分
けた通信インフラの構築機器
の仕入、販売



情報セキュリティ関連製品

様々な情報リスクに対して対策
を講じる、トータルセキュリティ
機器の仕入、販売

■ 電磁波環境コンポーネント・精密エンジニアリングコンポーネント等の製造、販売

電磁波環境コンポーネント

電磁波による電子機器の誤作動防止などを目的とする電子部品の製造、販売

【フェライトコア】



【ケーブルシールド】



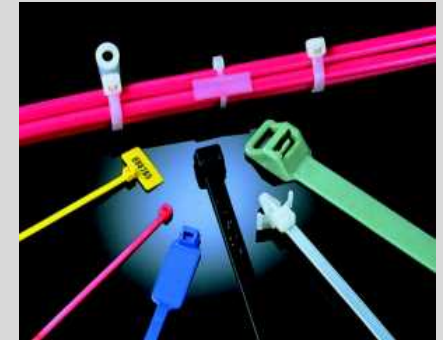
精密エンジニアリングコンポーネント

プラスチックファスナー等の各種機器機構部品や生産性向上に貢献する熱・振動・衝撃・騒音への対策部品等の製造、販売

【クランプ】

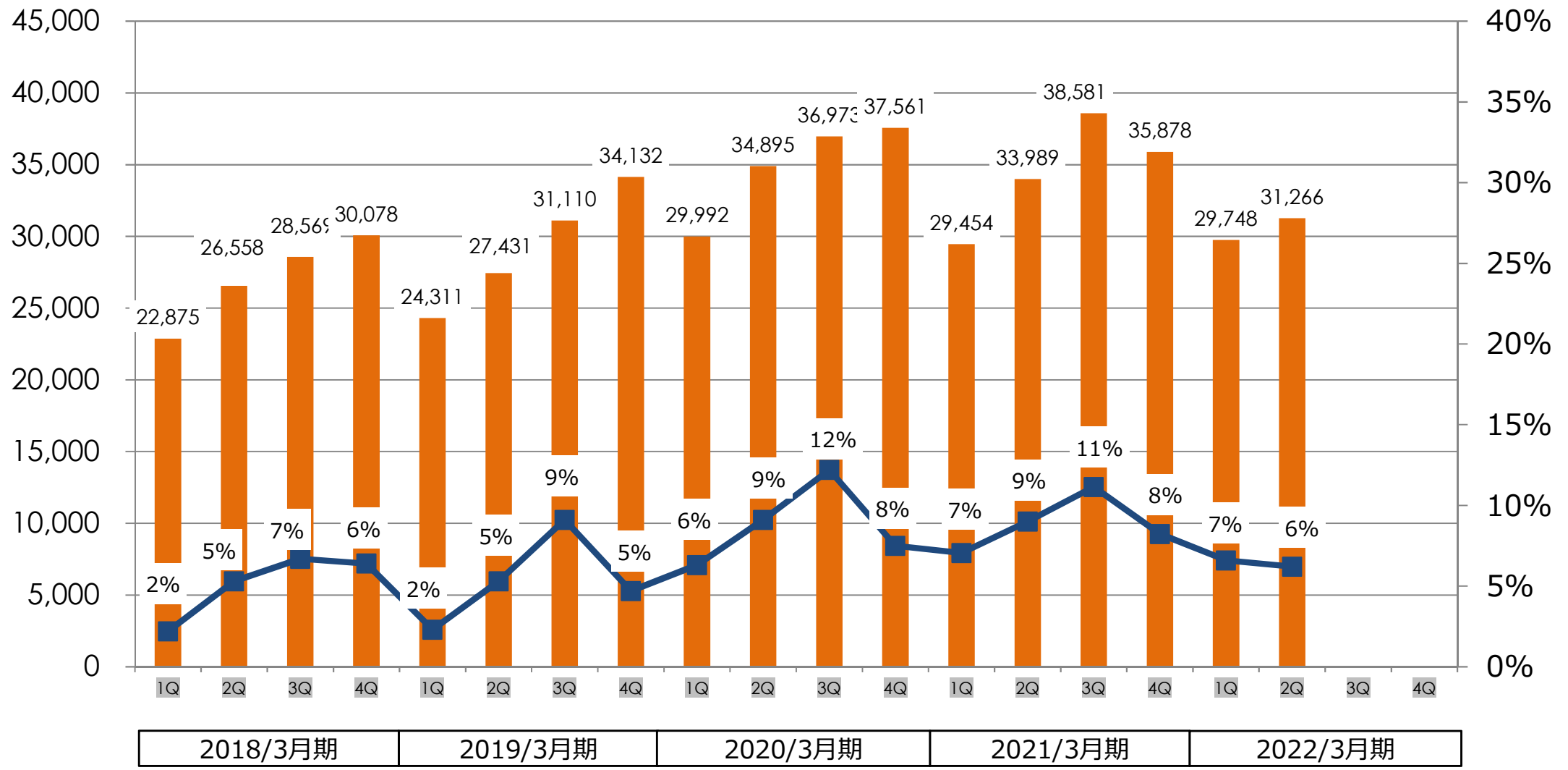


【バンド】



連結売上高の推移（四半期）

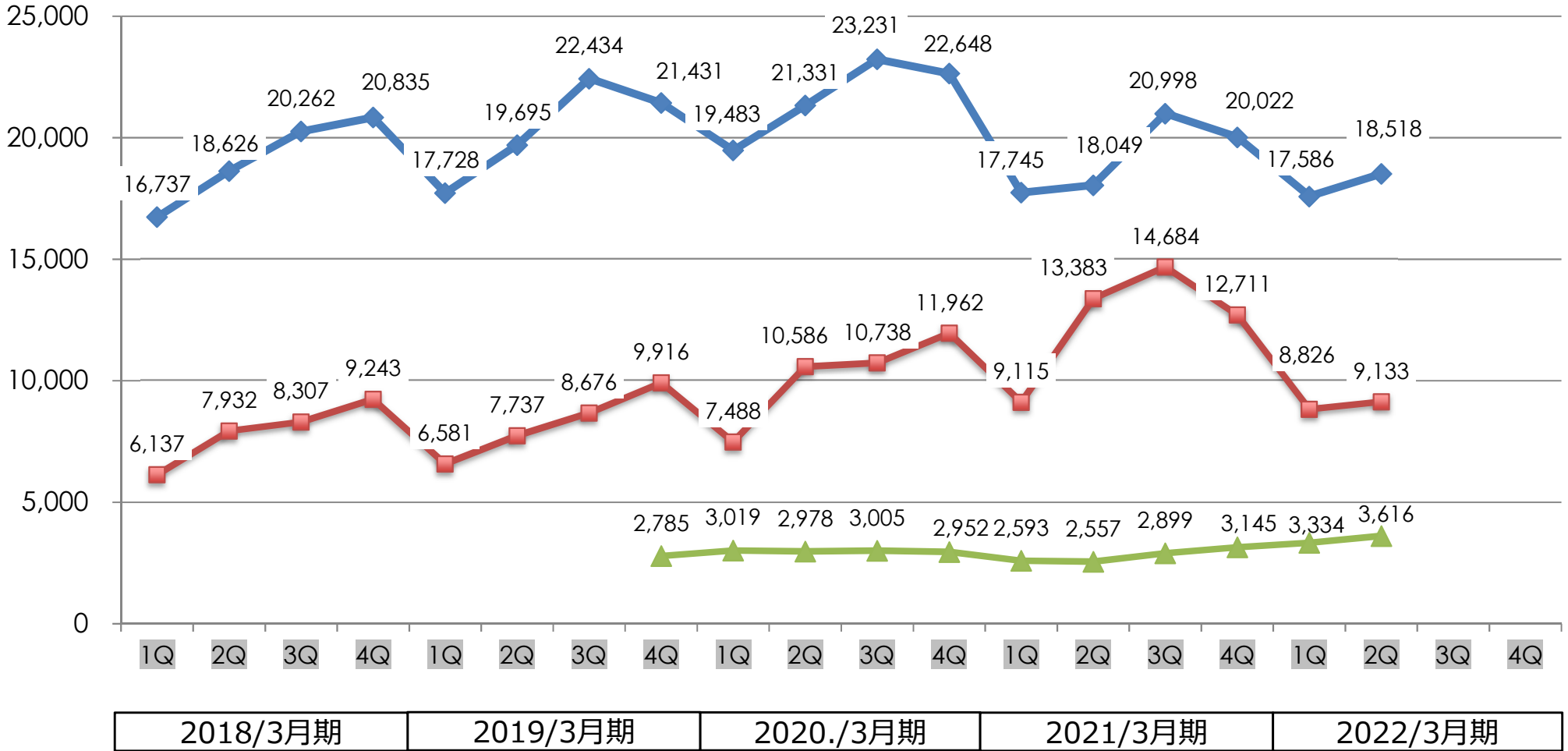
(単位：百万円)



セグメント別 売上高の推移 (四半期)

◆ 製造・工事・サービス事業 ■ 流通事業 ▲ 電子部品事業

(単位：百万円)



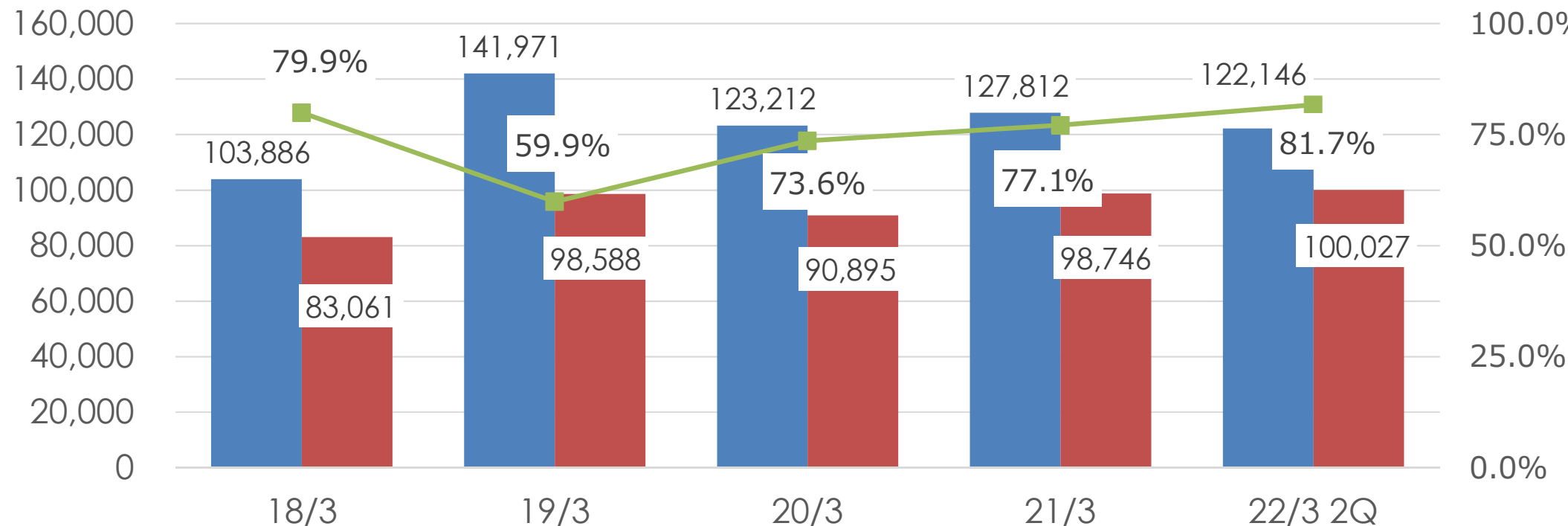
※2022/3月期よりセグメントを変更しており、それ以前の数字は新セグメントに合わせて修正した数字となるため過去の他開示書類と数字は一致しません。

総資産・純資産・自己資本比率

(単位：百万円)



(単位：%)

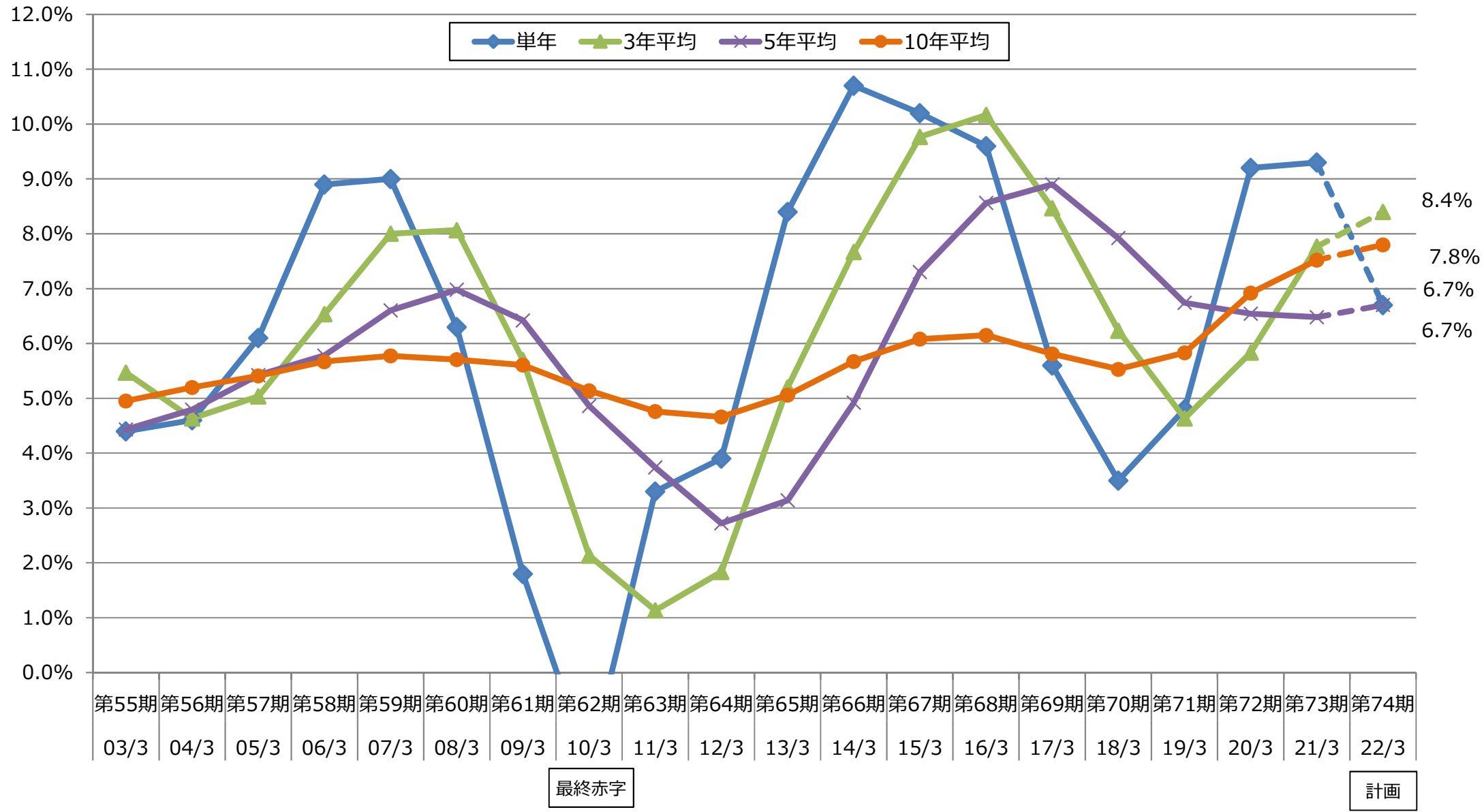


(単位：百万円)

	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3 2Q
総資産	103,886	141,971	123,212	127,812	122,146
純資産	83,061	98,588	90,895	98,746	100,027
自己資本比率	79.9%	59.9%	73.6%	77.1%	81.7%

ROE（自己資本当期純利益率）の推移（連結）

2022年3月期
第2四半期



標準品とカスタム品

標準品のリーディングカンパニー

カスタム品
||
一品一様
の特注品



標準品
||
仕様が定められたカタログ掲載品

計画生産
在庫管理

量産力

カスタマイズ



低コスト、短納期で
品質の安定した製品を提供

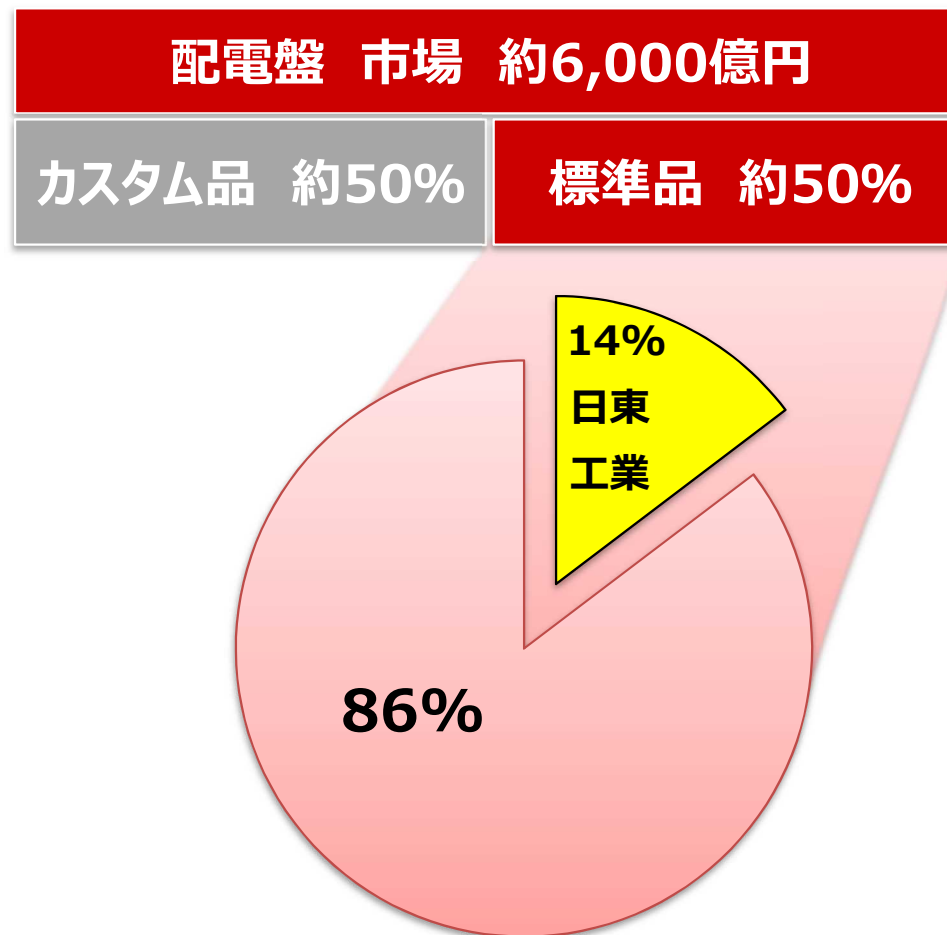
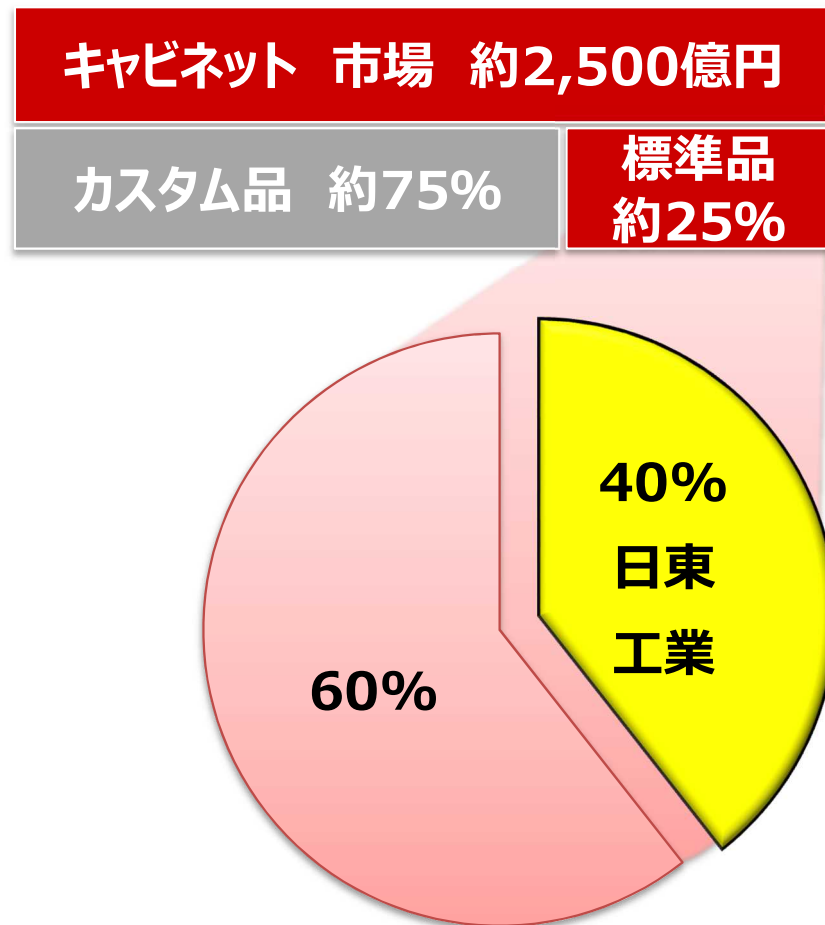


生産効率の追求により
大量生産を可能に



標準品をベースとした
仕様変更にも対応可能

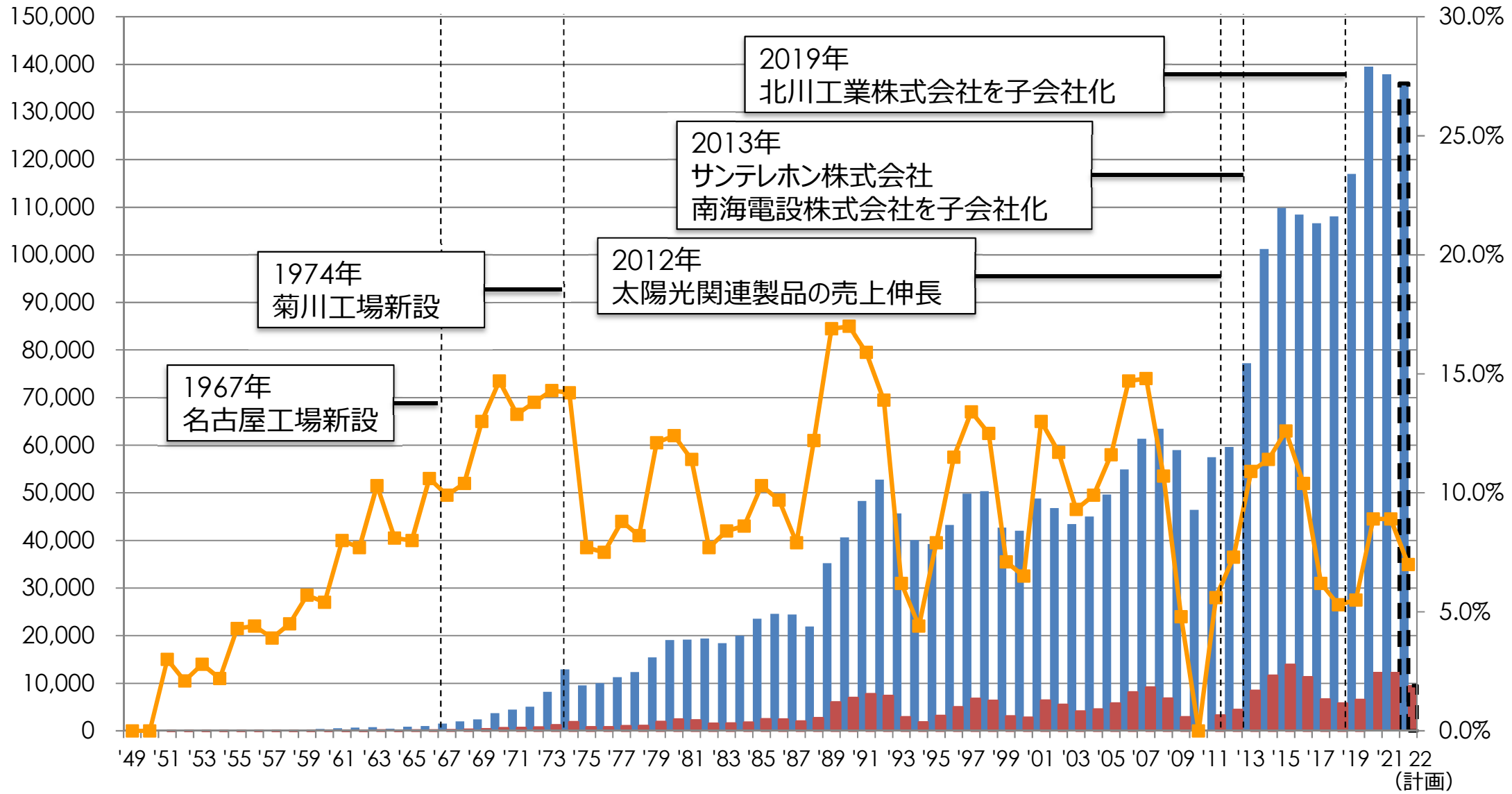
標準品市場でキャビネットはシェアNo.1！配電盤はシェアNo.2！（※）



※キャビネット市場にシステムラック、配電盤市場に光接続箱を含む

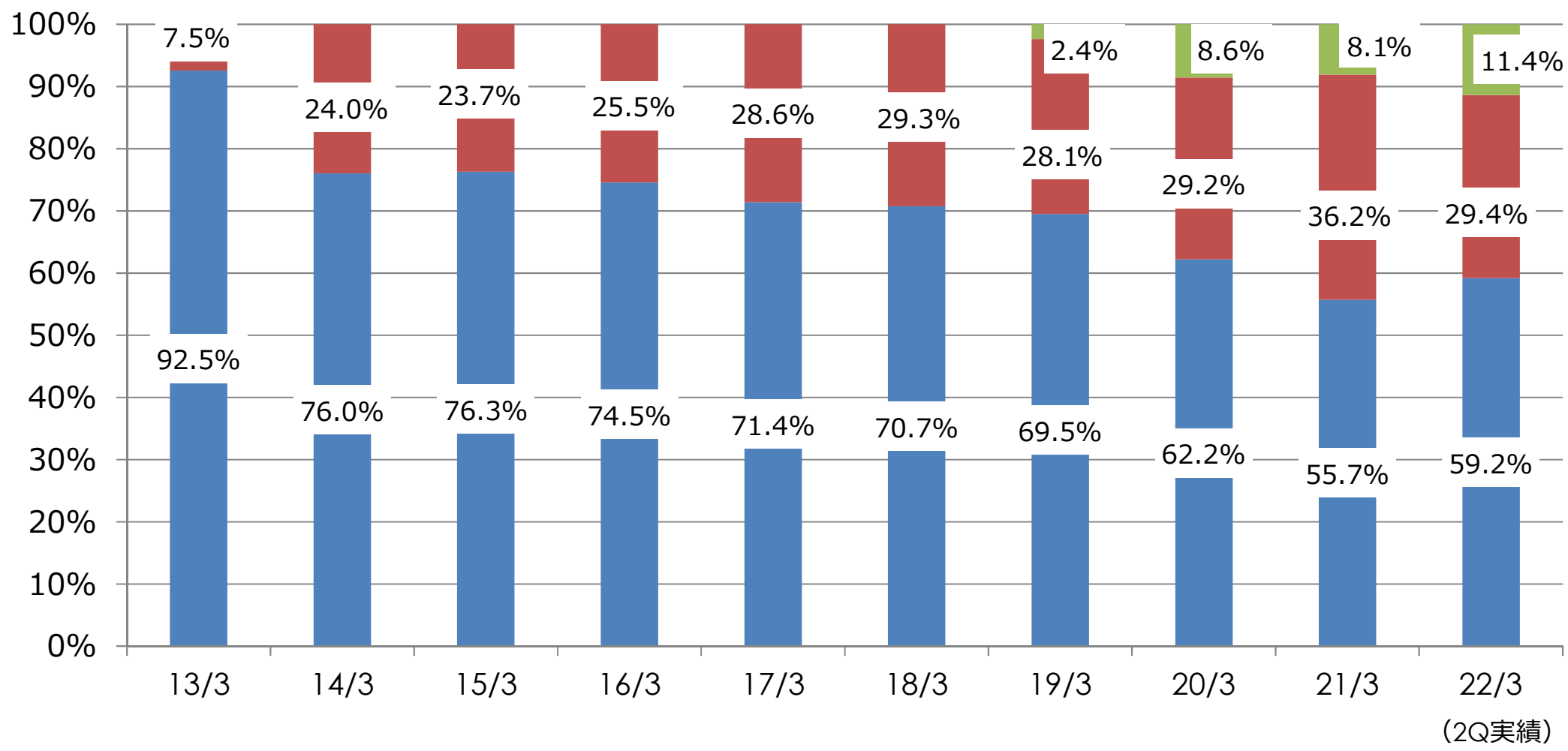
業績推移 設立～現在

(単位：百万円)



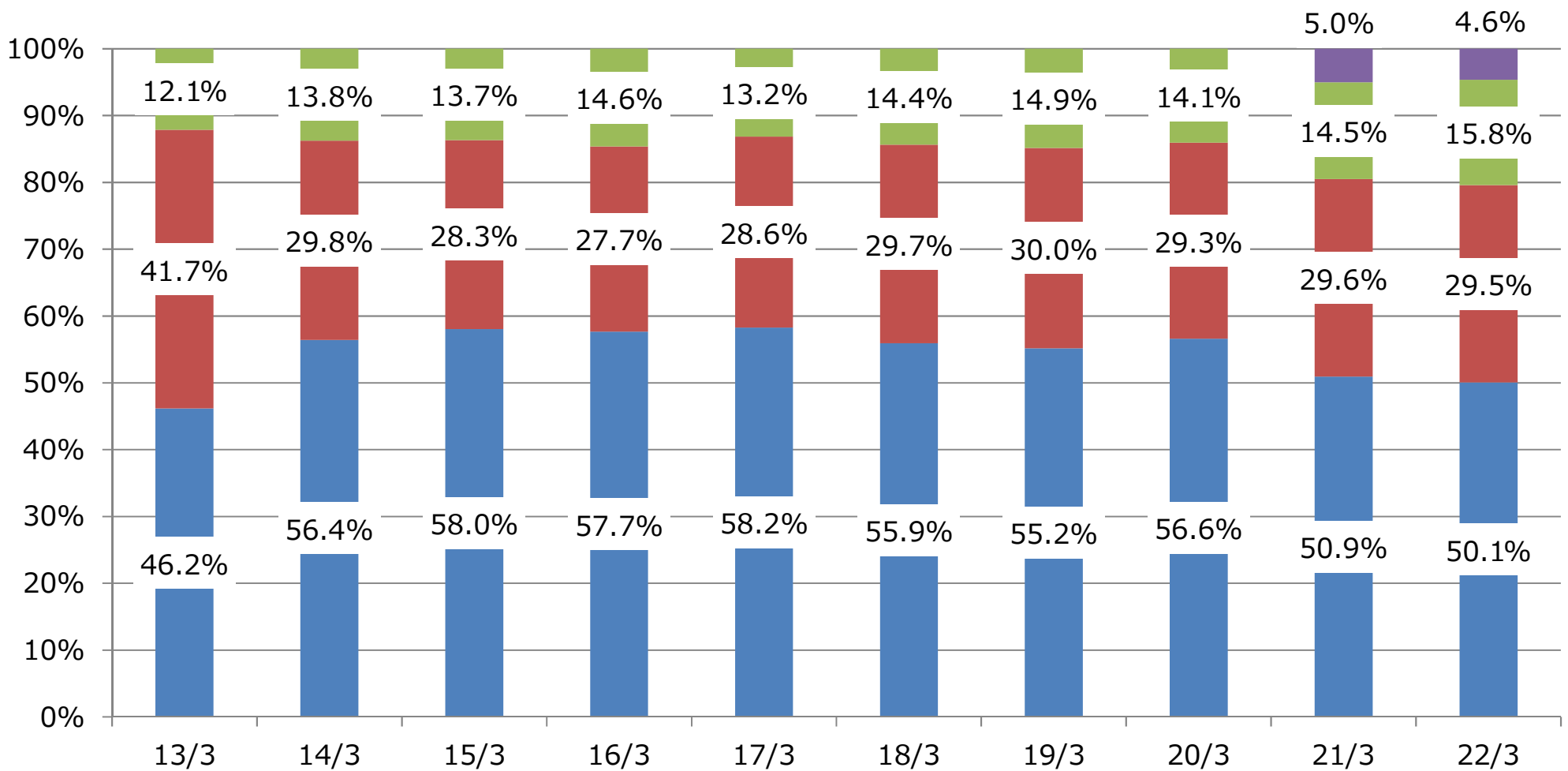
事業セグメント別 売上高構成比

■ 製造・工事・サービス事業 ■ 流通事業 ■ 電子部品事業



※新セグメントに合わせて修正した数字となるため過去のお開示書類と数字が一致しません。

製造・工事・サービス事業（部門別売上高構成比率）



※21/3月期の数字は、新セグメントに基づき算出した数字を表示しています。
 20/3月期以前の「配電盤」、「キャビネット」は旧「配電盤」と旧「キャビネット」の数字をそのまま表示しています。
 20/3月期以前の「遮断器・開閉器・パーツ・その他」は、旧「遮断器・開閉器」と旧「パーツ・その他」を合算した数字を表示しています。
 四捨五入の関係で数値の合計が一致しないことがあります。